

学校教員 2015年度

H. T. さん（初等教育学校心理専攻）

滋賀県小学校 合格

【はじめに】

今回、このような機会を頂きまして本当にありがとうございます。拙い文章で申し訳ありませんが、これから私の教員採用試験に関する経験談や、感じたことなどを書かせて頂きます。読んで下さった方のお役に少しでもなれたら、とても嬉しいです。

私がこの大学を志望した理由は、教師になるためではなく、心理関係の職に就きたかったからです。ですが、教育実習やボランティア、スクールサポーター等様々な機会で、子ども達の優しい心や頑張る姿から、私も前に向かって頑張ろう、というエネルギーをたくさん貰ってきました。私自身、要領がとても悪く、落ち込むことが多いのですが、こんなに情けない自分に対してでも、まっすぐに向き合ってくれて、勇気と元気を分けてくれる子ども達のために、少しでも力になれるような生き方をしたいと思い、教師を志望しました。

【教員採用試験までの流れ】

3月～4月：筆記試験の勉強開始

所属していた専攻では、3回生の1年間を使って1本の論文を書き上げる課題があったため、本格的に筆記試験の勉強に取り組めたのは3月初旬でした。周りの方がどんどん勉強を進められていてとても慌ててしまいましたが、大学側が準備して下さる「春季セミナー」（大学の教授が講義形式で筆記試験のポイントを教えて下さります）や「教職実践論」には必ず参加しました。「教職実践論」では、教育関係者やOBの方々からの、小論文や集団討論の丁寧なご指導などがありました。

筆記試験では「教職教養」「一般教養」「小学校全科」「小論文」の大きく分けて4つがあります。まず、小学校で教える全教科の内容や、教科ごとの学習指導要領について学ぶ「小学校全科」と「一般教養」は内容が被っている箇所がいくつかあったため、「小学校全科」を中心に勉強しました。苦手な理系科目は、知人に教わりながら少しずつでも取り組んでいきました。「教職教養」は、教育法規や教育史、教育心理学など、教育に関する知識をひたすら学んでいくような内容です。覚えないといけない量の多さに毎日不安になりながら取り組んでいましたが、これから関わっていく教育界について少しでも知識が増えていくことに楽しみながら取り組んでいました。そして、私の中で一番思い入れが強いものが「小論文」です。これは、教育に関する課題（いじめや不登校など）や、教育に関する自分自身の考え方や取り組み方について、与えられたテーマに沿って書いていくものです。初めて書いた小論文は、教職実践論で出された課題に沿って書いたものですが、書き方が全

く分からず、教育に対しての自分の考えの浅さにショックを受けました。このままでは採用試験に受かる受からない以前の問題だと思い、大学の教授に添削して頂くようお願いし、1週間に約1-2本を書いて添削して頂いていました。初めころは、教育の課題に対して表面的にしか捉えられていない未熟な書き方にご指摘を受けて、考えて取り組み続けることで深く物事を捉えていく大切さを教えて頂きました。また、ご指導の際には、教授ご自身の経験などもたくさんお話しして頂き、経験がとてもなく考え方がとてもなく未熟な私には、一つひとつのお話が大変有難く、諦めずに物事に純に取り組んでいくことの大切さを学ばせて頂きました。

筆記試験は参考書を開いて一人で黙々と取り組むイメージがあるかもしれませんが、初めて出会う知識に楽しんだり、周りの方の力をお借りして進めていく方が、よりたくさんのかことを学べると感じました。

4月～6月：学内推薦、面接練習

4月に大学推薦の募集が始まり、5月には推薦を頂いたため、「小学校全科」「一般教養」「教職教養」が免除になりました。そのため、「小論文」を中心に組みつつ、「集団討論」や「1分間PR」の練習も行っていました。面接練習では有難いことに、友人達と一緒に練習をしようと声をかけて頂いたため、最後まで一緒に練習を重ねていきました。同じ校種の方だけではなく、高校や中学校、特別支援学校等を志望している方達が集まり、自分の知らなかった経験や考え方などいろんな視点からのお話を聞くことが出来てとても楽しかったです。また、勉強させて頂けるだけではなく、心が折れてしまいそうになる時にはいつも支えてもらい、試験当日もお互いに応援し合いながら挑むことが出来、感謝の気持ちでいっぱいです。採用試験は、校種にとらわれずにたくさんの人と関わりながら、支え合いながら練習と対策をしていくことで、最後まで踏ん張ることが出来ると思います。

7月～8月：1次試験・2次試験について

ここからは、実際の試験について書かせて頂きます。

1次試験 7月19日(日) 集団面接、集団討論(筆記試験は省略)

集団面接では、6-7人ぐらいの方と一緒に面接を行います。具体的には、テーマに沿って自分のことをアピールする「1分間PR」、教育に関する自分の意見を発表していく「意見発表」があります。

1分間PRでは、過去のテーマなどを参考に、自分のアピールポイントをいくつか考えておきます。それを元にして練習を重ねていくことで、本番で“何を言えばいいかわからない”、“時間が余ってしまった”なんてことにはならず済むと思います。ただ、私はこの1分間PRの練習の際に、あまりにも作った文章を丸暗記したままで発表しようとしていたため、少しテーマが変わると焦って発表できなくなったり、文章を読んでいるだけで心がこもっ

ていないようになっていました。私は作った文章を読むよりも、これだけは言う！という
ことを一つ決めて話す方があっていました。もちろん、文章を考えて作っておく方法があ
っている方もいると思うので、練習していく中で文章を作って読んでみたり、文章を作ら
ずに読んでみたり、自分に合った方法で発表できるようになればいいと思います。特に
私が感じたことは、上手く言おうとしたり、綺麗な言葉で言う方が良いというわけではな
く、自分の短所も長所もひっくり返して受け入れる事で気持ちも軽くなり、発表もしやす
くなったように感じました。

集団討論では練習を重ねるほど、自分がどのようなタイミングであれば発言しやすいか、
話題を拓げるためにはどのような切り込み方をすればよいかを周りの方々から学ぶことが
出来ると思います。「討論」だからと言って、一人ひとりの意見のぶつかり合いではなく、
受験者全員で教育について考えを出し合って楽しむことがいいと思います。実際の試験の
集団討論においても、様々な経験をされてきた方々のお話を聞くことがとても楽しかった
です。また、私は論理立てて話すことが苦手なため、練習の際にもよく話の流れを止めて
しまったり、論点をずらしたりしてしまいました。ですが、周りの友達から「話をしっか
りと聞いてくれているね」と言って頂いたことをきっかけに、上手く話す事よりも、一人
ひとりの話をよく聞いて共感・理解することを大切にしていこうと思うことが出来ました。
そこからは、発言をすることにも極度に緊張することがなくなりました。教員採用試験だ
からと言って、自分の苦手なところを全て克服しなければ・・・と追いつめてしまっ
ては、それまでに作られてきた自分の良い所も生かされにくくなってくると思います。
苦手なところは周りの方々にたくさん助けて頂き、反対に自分の得意なところ、自慢でき
るところで周りの方々の力になって下さい。

2次試験 8月26日(水) 個人面接・模擬授業・音楽実技・特別活動・水泳(8月18日)

・模擬授業

初めに、自分の好きな科目を決めて(私は生活科を選択しました。)、県庁でコピーさせ
て頂ける過去問のテーマに沿って友達と一緒に指導案を作り、模擬授業の練習をしました。
友達と一緒に練習することで、自分の声の出し方、表情、発問の仕方など、人の目から見
られた時にどのように見えるかを教えて頂き、改善していけるので、とても有難かったで
す。また、友達の話し方や授業展開の仕方なども、それぞれの個性の良さからたくさん学
ばせて頂きました。

・音楽実技、特別活動

音楽実技は、ピアノ、リコーダー、歌唱の3つです。ピアノ初心者でしたが、時間が少
しでも空いた時に練習することで、不器用な私でも何とか形に持っていくことが出来たの
で心配しないで下さい。また、歌唱にも自信がなかったので、友達からコツを教えて頂き、
実際に歌ってみて指摘をして頂きました。また、今年度から新たに加わりました特別活動
の実技は、教育実践論で対策をして頂いたことと似ている内容だったので、落ち着いて取

り組むことが出来ました。詳しい内容は、「子ども達にある一つのテーマを伝えるために、昔話を題材にして劇をきなさい」というものでした。私達の班では、「人間関係」について、「瘤取り爺さん」の題材を用いて劇を行うというものでした。受験者 5 人でどのような配役をするか、どのようなセリフを言うか、子ども達に人間関係におけるどの大切な部分を伝えたいか等を話し合い、劇のリハーサルを行った上で、本番 1 回を演じるというものでした。話し合いから演じる本番までの全ての行程を試験官の方が見ていらっしゃっていましたが、仲間同士でお互いに協力し合いながらやりきることが出来ました。

・個人面接

2 次試験において最も比重が大きいとされている個人面接の対策では、周りの方々にたくさん助けて頂きながら自分のことを見つめ直し、それらを相手にどのように伝えるかということを練習しました。

教育に対してどのような考え方を持っているのか、どのような経験をしてきたか、どのような子どもと接してきたか、など、自分の経験と性格を照らし合わせながらノートにまとめていきました。

自分を見つめ直すということは、それだけ自分の至らない点を振り返るということだったので、途中で何回も心が折れてくじけていました。ですが、そんな至らない点でいっぱい私でも、たくさんの方々に良くして頂き、優しくして頂き、助けて頂いたおかげで最後までやり通すことが出来ました。

本番では、実際にノートにまとめていたこと通りにいったことはほとんどありませんでした。ですが、あの振り返りと見つめ直しをしてきたことで、変に取り繕わずに、自分の持っているものだけを正直に見せようと思いながら面接官の方とお話することが出来たと思います。自分の短所を克服していくことも、とても大切だと思いますが、自分が持っているものを大切にすることで、気持ちにも余裕が出てきて、落ち着いて発表することが出来ると思います。

【終わりに】

試験対策をしていく中で、自分の至らなさや甘さや情けなさに何度も泣いていましたが、その度に周りの方々に支えられ、励まして頂きました。不器用で要領の悪い私が合格を頂けたのは、周りの方々からの支えがあったからこそだと思います。

特に、教員採用試験の対策をしていく中でご指導して頂いていた先生から、「落ちたとしても、それまでにあなたはあなた自身が出来る精一杯の努力をすることが出来たのだから、もうそれ以上は何もいらない。駄目だったときは、またそこからあなたが出来る精一杯の努力をすればいい。」と言って頂きました。試験の合否にばかり気を取られて、自分の持っている以上のものを見せようと必死だった自分にとっては、とても恥ずかしい気持ちになるお言葉だったと同時に、涙が出るほど嬉しいお言葉でもありました。

周りの方の良い所ばかりに目が行って、焦ってしまうこともたくさんあると思います。

自分のやり方に不安を感じてしまい、軸がぶれてしまうこともあると思います。ですが、それぞれの人が置かれている状況の中で、その人なりの精一杯の努力をすることが出来たら、それだけでも本当に充分だ、ということを私はこの教員採用試験の中で教えて頂き、実感することが出来ました。どうか、これを読んで頂いた方が自分自身の良い所をたくさん見つけて、少しでも気持ちが楽になって頂けたらと思います。

最後に、内容がまとまらずに読みにくい文章であったにもかかわらず、最後まで読んでいただき本当にありがとうございました。

皆さんが、それぞれ納得した道に進めるように、陰ながらではありますが心より応援しております。

H. S. さん（初等教育音楽専修）

滋賀県小学校 合格

【はじめに】

この就職活動記に書く際に、どのような内容にしようか迷いました。採用試験を突破するための勉強法、いつから準備をしていたか、など当たり障りもないことを書こうかと。でも、正直そのような情報はこれからたくさん、いろんな先輩や先生方から聞く機会があると思います。そのようなことを書くよりも、それ以上に私が感じた「大事なこと」を述べていきたいと思います。これより下に書いてあることはあくまでも私の価値観であり、読んでいただいているみなさんが必ず共感できる内容であるとは言えないでしょう。ですので、参考にできそうな部分だけ参考にさせていただき、いらないと思う、悪影響だと思うところは、バツサリと切っていただいて構いません。どうかそのようなお気持ちでご覧ください。

【採用試験に向けて】

i) 筆記試験に向けて

初夏にどっしり構えていらっしゃる教員採用試験に向けて、みなさんは日々勉強していると思います。大学で行われる教職実践論でいやほど小論文を書き、面接・討論の練習をし、空き時間には必死で教職教養や一般教養、専門分野の勉強をし。正直、私はほとんど筆記試験の勉強をしていませんでした。直前に頑張ったくらいです。してないといえようそになります、けれどしたといえれば他の人に嫌味を言われます。「あれでしたってよーいえるな。」自分自身でも、あの勉強でよく一次試験通ったなと思います、本当に。その経験から言えることは、「点を稼ぐなら小論文で」。正直、範囲の広い教養は運要素が絡んできます。選択問題なので、天性の直感で当たることもあります。ですので、確実に点を取りに行くのであれば小論文を完璧に、自分をうまくアピールできるまで練習してください。もちろん、教養などの勉強をすればするほど点数は高くなります。しないことをお勧めしているわけではないですので、勘違いのないようにお願いします。

ii) 面接試験に向けて

集団面接・集団討論、個人面接については、これも運要素がかなりあると感じます。集団面接・討論のグループによって空気も変わってきますし話す内容や意見の飛び交い方など様々です。ましてや、面接官によってもだいが変わってきます。実際私の試験では、実習校の先生が面接官として試験におられました。その先生の目の前で集団討論・集団面接を行いました。変な緊張感もありましたが、知っている方がいるというだけで安心できるのも確かです。そんな面接等で大事にしてほしいのが、きれいごとを並べるのではなく、「自分の一番の売りを前面に押し出す」ことです。その売りが何であってもよいと思います。

それを見つけることが面接のカギになると私は感じました。自分は何がしたいのか、いままでどんなことを経験してどんなことを大事にしてきたか。私自身それが「音を楽しむこと」であったので、それで押し切りました。面接官の中には、なかなか揺さぶってくる方もおられますが、まっすぐ自分の気持ちを固めて挑んでください。その方がいいと感じました。

自分の売りを何にすればよいかわからない、そんな方はとりあえず遊んでください。そしていろいろなものに触れていろいろな価値観に出会ってください。机の前ではそういうものは得られません。遠くに行くのも良いですし、家の近くの道を歩くだけでもいいです。いつもふつうと思っているものでも、改めて考えると不思議なものや面白いもので溢れかえています。それが無理なら友達と飲みにも行きましょう。いろいろな話を聞くだけで見方考え方なんて無限に出てきます。そんな視点を見つけてからもう一度考えてみると意外とサクッと自分のアピールポイントがわかったりわからなかったり...

iii) 実技試験に向けて

私が受けた滋賀県では、模擬授業、音楽実技、水泳実技、特別活動に関する実技の4つが二次試験でありました。これらは率直に採点基準が分からないです。特に特別活動に関する実技なんかは、まったくわかりませんでした。今回は模範劇をさせられたのですが、何がどう評価されているのか伝わってきませんでした。ですので、これはプロにお聞きください。

模擬授業に関しては、たぶんものすごくやりにくいです。試験官が後ろで無表情で見えます。なので、表情を変えさせたら勝ちだと思います。私が模擬授業をしている時、1人の試験官がぶふぁといきなり笑いました。心の中ではガッツポーズでした。試験官でも隠せないときは隠せません、なんらかの表情をゲットできるようにやってみましょう。たぶん、それを考えていると緊張がほぐれると思います。いかに極限状態を切り抜けられるか、そこが勝負になるでしょう。また、メモの提出もあるので授業の展開などはわかりやすく記入しておくといいです。

水泳実技は、私ができない分野なのでアドバイスしにくいのですが、とにかく死ぬ気で泳ぎ切ってください。本当に死んだらダメですが。

最後に音楽実技です。音楽実技はバイエル、共通教材の歌唱、初見唱、リコーダーの初見奏でした。私は音楽専修でしたので、それほど困りませんでした。ピアノ、リコーダーが苦手な方はある程度練習することをお勧めします。ただし、もし私が試験官をするのであれば、正確に弾くことはある程度は見ますがそこまで重視しません。それよりも音楽であるかをみます。もっとも具体的に言うと「途中で勝手に音楽を止めないこと」です。誰でも弾き間違い歌い間違いはあります。その時に絶対に音楽を止めないでください。そのまま先へ進んでいってください。もし現場で子どもたちと一緒に歌うときに、間違えたからといって勝手に最初からやり直しますか？子どもたちの音楽まで止めてしまうことになります。練習から止まる癖がついていたら本番でもやってしまうので、練習の時から

最後まで止まらないように気をつけてください。ピアノであれば左手が止まってしまったとしても、片手で弾き続けることができます。最後まで左手が入らなくても音楽は続いていけば問題ないです。歌唱分野も同じです。ただただ音を外さずに歌えば良いわけではないです。少し音が外れていたとしても、音楽としての意図を試験官につたえることができれば良いわけです。音楽実技に関しては、「 1音たりとも間違えてはならない 」という概念を取り除くことが成功の近道であると感じます。もちろんこれも練習なしでは行かないものなので、上のことを注意して練習に取り組んでみてください。試験で堂々とできるはずですよ。

【最後に】

長い長い文章を最後まで読んでいただきありがとうございます。試験対策は量がいやほどあり、精神的にやられてしまうこともあります。あきらめずに頑張ってください。最後に、教員採用試験対策で私自身が何より大事だと思っていたことで締めたいと思います。確かに勉強も練習も大事です。でもそれだけでは足りないです。採用試験は今までの入試と違って「人」も見られます。いくら勉強ができて、生気のしない「人」は印象が良くないです。なので、精いっぱい今その時間を「楽しむ」ことを大切にしてください。学生にしかできないことを、今の自分が一番楽しいと思える時間をたくさん過ごしてください。みなさんが生き生きとした先生になれるよう心から願っています。

K. M. さん（障害児教育専攻）

京都市小学校 合格

【教員採用試験を受けたきっかけ】

滋賀大学教育学部に入学するまでの私にとって教員という仕事は、決して身近な存在ではありませんでした。そのため、4回生になって教員採用試験を受けることになるとは思ってもみませんでした。

3回生で特別支援学校と小学校での教育実習を終え、特別支援について学んできた中で、私が今まで身につけてきた知識や支援の仕方、観察力が小学校でも必要とされているということを感じました。そして、これまで積み重ねてきたことを一番活かせる仕事なのではないかと考え、自分が生まれ育った京都市で小学校の教員を目指してみようと思い、受験することを決めました。

【一次試験】

◎筆記試験

大学推薦をいただいたので、筆記試験は免除でした。しかし、大学推薦の枠は限られていたため、一次試験に向けての勉強は4回生の4月ごろから始めていました。3回生の春休みに教職教養、一般教養、小学校全科の教本とドリル形式の本を買い、教職教養からとりかかりました。「一日〇ページは目を通す」と自分の中で決めたり、ノートにまとめてみたり、電車などに乗っている時間を使ってみたりと自分なりの勉強法で取り組んでいました。また、京都市役所に3年分の過去問があるので、コピーしておくとう京都市の問題がイメージしやすくなるのではないかと思います。

◎個人面接

1. 個人面接

実践論でもらった報告書の質問をもとに、面接ノートを作りました。文章を丸暗記するのではなく、ワードをいくつか挙げて文章にするのがよいのではないかと思います。主に実践論で練習するのですが、本番のような緊張感の中で取り組んでいました。実際に、本番では練習していた質問も多かったため、練習がとても役に立ちました。個人面接で志望動機や自分の長所・短所などを考えたことは、自分自身と向き合うよいきっかけとなりました。

2. ロールプレイ(1分間の場面指導)

練習しにくいとは思いますが、いざ本番となるとかなり焦ってしまいました。何年生と言われても大丈夫なように、1年生から6年生までの子どものイメージを持っておくことや、

落ち着いて話したり、表情を意識したりと場面によって話し方を工夫することが必要なのではないかと思います。

【二次試験】

◎小論文(50分1000字、20分400字)

私は文章を書くのがとても苦手で、小論文には苦手意識がありました。人一倍頑張らないといけないと思っていたため、先生に添削してもらった小論文は必ず書き直し、1つのテーマで2つ以上は書くようにしていました。小論文用のノートを作っておくと、「この問題の時にはこの構成メモ」と書きやすくなるのではないかと思います。小論文で考えていたことが集団討論にもつながることもあります。なるべく多くのテーマで書く練習をして、先生にそのそのつど添削してもらい、どんな問題でも困らないようにしておくべきだと思います。

◎体育実技(とび箱・バスケットボール)

一次試験が終わってから、実技試験の練習にもとりかかりました。学校の体育館の空いている時間を使って、実践論の班のメンバーで5回ほど練習をしました。体育の先生に指導していただいたり、体育専攻の友達に見てもらったりして、よりきれいなフォームでできるよう意識しました。私は試験直前の実技練習でとび箱から落下し、怪我をしてしまったので、準備体操をしっかりと行ってください。

◎集団討論

集団討論の対策は1人ではできません。実践論の班のメンバーで集まっている様々な自治体のテーマで練習したり、同じ自治体を受験する人と自治体に合わせた練習をしたりと練習を重ねることで流れをつかむことができます。京都市は集団討論の人数が12.3人と多いため、発言回数が自然と少なくなってしまいます。また、テーマも具体的であるため、内容整理というよりも対策メインの話し合いになります。私の本番では、講師をされている方々から今までの経験からの実践がたくさん挙がっていたので、私は今まで出ていた実践を踏まえて、問題を多方面から見るということを心がけて発言しました。

◎指導案作成

京都市で使われている3~6年生の教科書から、試験に出そうな単元を予想し、指導案作成と模擬授業の練習をしました。最初は京都市の指導案の書き方がわからなかったのですが、京都市スタンダードを見て、取り組むようにしていました。京都市スタンダードは、京都市総合教育センターにあるカリキュラム開発支援センターでコピーさせてもらいました。

慣れてきたら、指導案作成と模擬授業の時間を計り、友達に指摘してもらった後にもう一度、指導案を書き直すとういと思います。

◎模擬授業

指導案作成で考えた授業展開をひたすら練習しました。話し方、表情、板書の仕方など細かいところまで友達に見てもらい、改善していきました。私が中でも重点的に取り組んでいたのは、表情です。練習から常にこやかでいることを心がけていると、本番でも自然と笑顔が出てくると思います。板書の書き順は無意識で間違っていることがあるので、「筆順辞典」というアプリを使い、電車などで確認していました。

【おわりに】

教員採用試験は、高校受験や大学受験とは違い、机に向かって取り組む勉強ばかりではないので、初めは対策の仕方がわからず、戸惑いを感じました。また、面接や討論、模擬授業など正解がわからないことにくじけそうになることもありました。しかし、この試験勉強は、私にとって自分自身を見つめ直すとてもよい機会になりました。

教員採用試験を通して、最後まで親身になって指導して下さった教職実践論の担任の先生、いつも優しく励まして下さったゼミの先生、ともに切磋琢磨しながら支え合った同じ自治体を受験した友達、実践論の班の友達、一番近くで応援してくれていた家族...と多くの方々に支えられて今の自分があるのだと感じています。この体験記が少しでもお役に立てれば幸いです。ありがとうございました。

M. M. さん（初等教育算数専修）

大阪府小学校 合格

【はじめに】

今年度、大阪府の教員採用試験で大学推薦をいただき合格しました。しかし最初から強く教員志望を持って大学推薦を考えていたわけではありません。私が教師になりたいと思ったのは、教育実習を終えた1月頃からでした。それまでは教師になりたいと全く思っておらず、やりたいことも見つからず、ふらふらしていました。しかし、周りには「教師になりたい」人が多く、すでに勉強を始めている人もいて、自分も早く進路を決めなければだめだと思いました。それから教育実習でお世話になった先生や大学の先生、友人に相談して、本当に自分は何がしたいのだろうと考えたとき、教育実習でかかわった子どものことが頭に浮かびました。今までに出会ってきた先生のように、今度は自分が目の前にいる子どもたちの支えとなり、成長を見守っていきたいという気持ちが生まれ、地元である大阪府の教師を目指すことを決意しました。

私が受けた教員採用試験の内容や経験して感じた事を記しますので、それらが少しでも皆様のお役に立てばいいと思います。

【教員採用試験について】

大阪府の教員採用試験は大学推薦をいただくと、1次試験が免除になります。

私は2次試験から受験しました。

〈1次試験〉

○筆記試験（教職教養）

○集団面接

〈2次試験〉（8月下旬～9月下旬）

○実技（プール(25m)）（8月22日）

市民プールに行って練習しました。大阪府は泳げるか泳げないかだけではなく、スタート・フォーム・息継ぎ・スピード感も評価に入ります。練習をすれば上手くなるので、得点を上積みできる試験かもしれません。

○筆記試験（小学校全科・小論文）（8月23日）

※この2つを合わせて100分の試験時間

小学校全科はマーク式で、28問くらいあります。国語・社会・算数・理科の4教科から出題され、各教科の最後の問題は学習指導要領の問題です。どういう問題が出されるのか、過去問で確認することをお勧めします。

私は過去問をひたすら解いて、間違った問題を理解するまで何度もやり直して勉強していました。大阪府の過去問だけでなく、大学にある他府県の問題集を借りて、様々なタイプの問題に対応できるようにしました。

小論文は、教職実践論で力を入れて取り組みました。添削してもらったものを何度も書き直しました。自分の文章を客観的に見ることは難しいので、大学の先生や教職実践論の先生、友人に見てもらってください。そうすることで、書き方がわかってくるし、書けたときの自信にもつながっていきます。

○模擬授業(5分)と個人面接(10分) (9月3日)

模擬授業をした後、そのまま面接へ移ります。

模擬授業は、事前に分野が言われます(例えば、算数2年生の図形〈三角形と四角形について理解できるようにする。〉←私はこれを選びました)ので、各教科(国・算・社・理)から一つ選び、授業をつくって行って、試験に臨みます。たった5分なので、内容というよりも受験者の雰囲気や態度をより重視して見ているのだと思います。しかし、内容は関係ないかというところではなくて、しっかり学習指導要領を読んで、身につけさせたい力を明確にした45分の授業計画のうちの5分間を授業することが大切です。私も、1時間分の指導案を作りました。面接でどういう意図があるのか、この後の流れを聞かれることもあるので、しっかり練ってください。

また、模擬授業では面接官は基本的に無反応です。「大丈夫かな」と思ってしまいますが、大丈夫です。印象に残る何かをしてやれという挑戦的な気持ちで臨むといいかもしれません。私は、大げさにリアクションしたり、「授業をするのは楽しいです！」を前面に出しました。緊張するのはみんな一緒ですが、そこでいかに自分らしさを出せるかがカギになると思います。

個人面接は、模擬授業に関する質問、面接カード(2次試験までに書いて提出します)に書いたことへの質問、自己アピール(1分間)、現代の社会問題や教育問題に対して自分はどうか対応するかという意見を求められます。ある程度の予習は必要ですが、予想外のことを聞かれることもあります。そういうときも堂々と、自分の考えをしっかりとはっきり言えたらいいと思います。

【おわりに】

今、教員採用試験の勉強を始めている人や悩んでいる人がいると思います。私はとても悩みましたが、自分を見つめなおす大切な時間となったので、結果的にはよかったと思います。準備は早ければ早いほどいいのかもしれませんが、迷っているのであれば悩めばいいと思います。自分一人で戦っているわけではありません。周りをよくみて、助け合って頑張っていたらいいと思います。

K. R. さん（中等教育情報技術専攻）

滋賀県中学校技術科 合格

【はじめに】

私は今年度、滋賀県教員採用試験中学校技術科を受験し、合格をいただくことができました。ここでは、教員採用試験を受験するにあたり、私自身が感じたことや悩み、試験時のことなど、私の経験をもとに、私自身にしか述べられないことを述べていきたいと思えます。参考になるかはわかりませんが、少しでもみなさんの就職活動や教員採用試験のお役にできれば幸いです。

【受験するまでの悩み】

私は、小学生の頃から教員になるという夢を抱いていたため、教員採用試験を受験するということに関しては、一切悩むことはありませんでした。私が悩んだのは、18年間育った故郷宮崎県で受験をするか、大学生を送った滋賀県で受験するかです。この問題は、5月に願書を出すぎりぎりまで私を悩ませました。京都府や大阪府を受験するのは違い、宮崎県は滋賀県から離れているため、合格を頂いた場合なかなか実家に戻ることはできません。また、「絶対に宮崎県で教員になって」「宮崎県の子どもを育ててほしい」といった両親や恩師の言葉が、より一層私を悩ませました。こうした悩みの場合、彼女が滋賀県にいるから滋賀県を受験するといった理由も考えられますが、当時は彼女もおらず、真正面から将来について考えることができました。また、滋賀県と宮崎県の両方を受験するという考えもありますが、今年は一次試験の日程がかぶっていたため、受験することはできませんでした。最終的に滋賀県で受験することを決断した理由は、採用状況です。滋賀県は全国的に見ても比較的、教員採用の状況は恵まれている方です。まずは「教員になる」という小さい頃からの私の夢を実現できる可能性が高い方を選択しました。将来的なことを考え、多くの葛藤が自分のなかにはありましたが、最終的にはこのような理由から滋賀県で受験することを決断しました。

【受験への流れ】

1. 1月～4月

私は、準硬式野球部に所属していたため、5月に引退するまでは全力で野球に取り組んでいました。教員採用試験のことを考えると、早くで引退し、勉強に専念するという考えもあるかもしれませんが、私たちの所属する準硬式野球部は、4回生の8月に行われる全国大会出場に向けて必死に野球をするというやり方でした。選手として必死に野球に取り組むのは、大学が最後なので全力で野球に打ち込んでいました。かといって、全く勉強をしていないわけではありません。年が明けて1月からは、授業、野球、バイトの合間を縫

って一般教養と教職教養の勉強に励んできました。人より勉強時間は劣るため、短時間で集中することを心がけました。部活動やバイトをしながらでも、自分に合った勉強のスタイルを確立すれば、無駄のない充実した時間が過ごせると思います。

2. 学内推薦

みなさんは、学内推薦があるのをご存知でしょうか。滋賀県の教育委員会が枠を設置し、滋賀大学内で行われる推薦の選考基準（一次：成績評価 二次：学内面接）を満たすことができれば学校からの推薦として教員採用試験を受験することができます。推薦されれば、一次試験の筆記試験が一部免除されるため（教職教養・一般教養・専門科目≪小学校の場合は全科≫）、夢を実現するにあたって願ってもないチャンスです。みなさんも、今年も学内推薦の制度があるのであれば、チャレンジしてみるといいと思います。

3. 5月～7月

私は運も味方し、上にも述べた学内推薦をいただくことができました。しかし、一次試験の一部が免除されるからといって、気を抜くことはご法度です。筆記試験の一部が免除され、時間に余裕ができた分、スクールサポーターを行い、学校現場で多くの経験を積みました。勉強としては、小論文と集団討論の対策に多くの時間をかけました。小論文は一日一本を最低ノルマとし、実践論の先生に見ていただいたり、友達と見せ合ったりして内容を向上させていきました。集団討論は、過去の討論テーマをすべて書き出し、このテーマならどのような意見が考えられるか、賛成派・反対派の両方から考えました。時には、5.6人で集まって実際に時間を想定して、模擬集団討論を行うことをお勧めします。

4. 一次試験

7月18日（土） 集団面接（志望理由・集団討論・質疑応答）

場所：膳所高等学校

7月26日（日） 筆記試験（教職教養・一般教養・専門科目）

場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス

一次試験は二週にわたっての実施で、7月18日（土）に集団面接が行われ、翌週の26日（日）に筆記試験が行われました。技術科の場合、今年度は受験者が8名（社会人1名・講師1名）で一班で集団面接が行われました。筆記試験は、学内推薦の場合、小論文と適正検査のみ受験しに会場まで行くことになります。集団面接・筆記共に、多くの勉強・練習時間が私自身の糧となり、自信をもって挑めたため、さほど緊張はしませんでした。

5. 7月～8月

一次試験が終わっても、気を抜いてはいられません。一次試験の合格発表が8月上旬で、二次試験が8月中旬から下旬にかけて行われるため、すぐに二次試験の準備に入らなけれ

ば間に合わないからです（私の場合、一次試験の合格発表が8月7日で二次試験が19日）。二次試験の準備としては、模擬授業・個人面接・専門実技の3つです。私の場合、模擬授業は同じ教科のメンバーで行うのではなく、小・中・高の受験校種・教科共に異なるメンバーと行い、お互いに見直すべき点を言い合うようにして練習を進めました。個人面接は、まずは一人で答えを考え、次にインターネットや本からの情報をもとに意見を固め、友達と発表しあう形で練習を進めました。時には、実際の時間を想定し、模擬個人面接を行うことをお勧めします。専門実技は、一人ではどうにもならないため、大学内の先生方に忙しい時間の合間を縫って専門実技の対策を行っていただきました。

6. 二次試験

8月19日（水）	個人面接（質問5～6個、時間にして15分前後）
	模擬授業（7分間）
	専門実技（金属加工）
	場所：栗東市立大宝東小学校

二次試験は、受験校種・教科ごとにそれぞれ日程や集合時間が異なります。私が受験した技術科は専門実技もあったため、朝から夕方にかけて試験が行われました。一次試験とは異なり、いずれも個人試験となるため、より落ち着いて日頃の練習の成果を発揮することが求められると思います。

【おわりに】

私は、滋賀県中学校技術科で採用をいただいたわけですが、最初にも述べた通り、滋賀県か宮崎県かで多くの葛藤がありました。しかし、試験が終わって今考えてみると、この葛藤や悩んで決めた決断こそが私自身を突き動かしていたように思います。18年間育った宮崎県で教員になるという思いを一旦心の中に封印し、滋賀県で受験するという事は、それなりの覚悟がいることです。最終的に私自身の夢の実現を後押ししてくれた両親のためにも、中途半端なことはできない、絶対合格してやるという強い気持ちが私自信を動かしていました。これから受験をする皆さんにいたっては、将来を大きく左右する教員採用試験なので、時には壁に当たったり、悩んだりすることがあると思います。そうした時には、初心に帰り、自分自身に問いかけてみてください。きっともう少し踏ん張ろうと思えるはずです。また時には、息抜きもお勧めします。勉強ばかりの毎日では、嫌気がさすはずです。時には友達とご飯を食べに行ったり、お出かけするのもいいと思います。気持ちがリフレッシュして、また明日から頑張ろうという気になれます。

最後になりますが、最終的に支えになるのは、教員になるという強い「意志」と少しの「運」です。運も実力のうちとよく言われるように、たくさん勉強して多くの練習を積み重ねれば、きっと試験中にあなたにも幸運が舞い降りると思います。強い「意志」をもってこれからの試験勉強に励んでください。みなさんの幸運をお祈りしています。

N. T. さん（中等教育理科専攻）

滋賀県中学校理科 合格

【はじめに】

私が教師になろうと思ったきっかけは、中学生の時の恩師との出会いです。小学生の時に塾に通っていたこともあり、先生という職業に興味は持っていましたが、その時は人に勉強を教えたいという気持ちだけでした。中学生の時に、恩師に出会い、熱いご指導のおかげで、私が人間としてすごく大人に成長できたと肌で感じることができました。また、それを自分のことのように喜んでくれました。何人もの生徒を、社会に出る人間として大人に成長させるという難しいことをするというやりがいと、生徒の成長をいちばん身近で感じることでできる喜びは何事にも変えられなく、この仕事にしか感じられないだろうと中学を卒業してから高校1年生の時に感じました。夢を叶えるために、滋賀大学に入学し、今に至ります。皆さんも、自分が教師になぜなりたいのか考えながら、読み進めて下さい。

【勉強スケジュール】

（3回生秋） 10月～2月

教職：専門2：8くらいの割合で1日2時間ほど勉強。この時期は自己分析を中心にしていました。自分の良いところや、悪いところ、教師になぜなりたいか、どんな教師になりたいかなどをノートに書いていました。ノートに書くだけでなく、長所を伸ばそうとしたり、課題点をしっかり改善しようとしたりしました。あと、あまり良いことではないかもしれませんが、たまに、他己観察をして、他人の良いところを真似したり、悪いところは絶対に自分にはしないなど参考にしました。自己分析をしっかりとったおかげで、本当の自分を知ることができ、少し自信を持ってましたし、教師になるという気持ちが完全に固まりました。

（4回生） 3月～5月

教職：専門4：6くらいの割合で1日4時間ほど勉強。この時期は面接ノートを作っていました。面接でどのような事を聞かれるか、本を見たりしながら考え、正直に答えられるかつ、相手に的確に伝わるように自分の意見をまとめていました。自分を良く見せようとして嘘をつく人もいるかもしれませんが、嘘はつかないというのがポイントです。絶対にぼろが出ますし、嘘をついても相手には響きません。

また、4月くらいから徐々に過去問を解き始め、傾向と対策を練りました。小論文の書き方を改めて勉強し始めたのもこの時期です。教職実践論で学んだことと参考書の二つを使い、自分が良いと思ったものを参考にし、課題にしっかり答えられるオリジナルの小論文を書くように心がけました。

（4回生） 6月～7月

教職：専門：一般教養 7：2：1 くらいの割合で勉強。この時期になると追い込みになるので、教職教養の条文など、本当に覚えられないものは、書き込み式の問題集を買ってきて、そこに書き込みながら覚えていました。それをしながら、ひたすら問題集を解きまくり、覚えました。また、過去問を何回もひたすら解いて、満点取れるくらいにまで繰り返しました。似たような問題が出るので、繰り返しすることで知識も定着するし、間違えないようになります。小論文に関しては、時間を計り、時間内に書ききる練習をし始めました。6月から集団討論の練習もし始めました。また、7月には就活のサイトや本を見ながら、マナーや敬語、服装などを勉強し、社会人になる人間として必要最低限のことはできるように心がけ、第一印象で落とされないように気をつけました。

※勉強に関しては繰り返し行うことが大切です。教職教養の問題集は5周以上、専門科目の問題は3周以上、過去問も3周はしていたと思います。自分では頑張ったかなと思っていましたが、これでも、まだ足りなかったかなと反省しています。ちなみに、筆記試験の得点率のボーダー等を考える必要はありません。それを考えるくらいなら、上を見て、満点目指してひたすら勉強を続けましょう。

【試験】

(一次試験) 筆記試験, 集団面接, 集団討論

筆記試験は今まで自分がしてきたことを思う存分出し切って下さい。また、滋賀県の教育についてまとめてある「教育の指針」は必ず覚えるようにしましょう。小論文に関しては、思ったより時間がありません。書きたいことをメモして、しっかり構想を練ってから書き始めるようにしましょう。

集団面接に関しては、自己アピールと意見討論があります。1分など時間制限があるので、短い時間の中で自分の言いたいことをしっかり伝えられるように、繰り返し練習をしましょう。時間内におさめられるようになれば、相手の記憶に残るようなキャッチフレーズのようなものを考えてみても良いと思います。

集団討論に関しては、練習しかありません。周りの友達でも誰でも良いので、練習を重ねましょう。失敗しても全然構いません。しかし、他の人が失敗した時に指摘するのはいいですが、責めるのはやめましょう。チームプレーです。自分の意見をはっきりと言うことも大事ですが、自分が一番になるという勝負ではありません。職員会議などで、討論などをする時に、自分がどのように会議に参加するのかを考えれば良いです。つまり、どうすれば課題に対してよい答えが出せるのか、周りの人の意見を聞きながら、自分の意見も出し、みんなで考えるのがベストだと思っています。

(二次試験) 個人面接, 模擬授業

個人面接は一次試験とは違い、自分自身のことについて聞かれます。ですので、大学生活を振り返り、頑張ったことやそこから学んだこと、それをどのように活かすことができ

るのかなど、一度振り返っておくことが大切です。自分のことを自分の言葉で、相手に伝えるように話す練習をしましょう。ただし、教育法規など教職に就く上で、必ず守らなければいけないものや覚えておかなければならないことは必ず覚えなおしましょう。一次試験が終わったからといって忘れてはいけません。(教員採用試験が終わってからも同様です。)

模擬授業はひたすら練習しましょう。過去問は教育委員会でもらえるので、それを参考にしながら、指導案や板書計画をつくり、生徒が分かる、楽しい授業を心掛けましょう。一番は分かる授業です。楽しいではありません。分かる授業をしようと心掛ければ自然と楽しい授業になります。周りのみんなと一緒に練習すれば、特に課題点などが分かります。

【伝えたいこと】

私がみなさんに伝えたいことは、教員採用試験に受かるためだけに勉強をしてほしくないということです。それをしたとしても何の意味もないし、困るのは自分自身だと思います。先を見越して、教師になった時のことを想像しながら、授業を考えたり、面接の答え方を考えることで、より具体的な答えが思い浮かびます。教師になって、何を大事にするか、どんなことに取り組みたいのか、考えながら教員採用試験の勉強に励んで下さい。そうすれば、試験が終わったところに人間的にとっても成長した自分に出会えると思います。

また、学生生活で何か本気で取り組めるものを見つけて下さい。ゼミでも、部活でも、勉強でもバイトでも何でもいいです。本気で取り組んでいる時の自分が本当の自分だと思っています。その本当の自分を見つめ直すことで、より良い人間に成長できると思っています。何かを本気で取り組める人はどんなことでも本気で取り組めますし、中途半端にしか取り組めない人は何をしても中途半端になると恩師にも教えられましたし、私もそう思っています。ですので、何か本気で取り組めるものを見つけて下さい。

最後に、周りの人たちに感謝することも忘れないでください。自分の両親や、恩師、ゼミの先生、同じ夢を目指す仲間、その他応援してくれている方々の支えがあって、今教師を目指すことができます。その人たちへ恩返しするという気持ちを持って頑張ってください。その感謝の気持ちがあれば苦しい時にでも頑張れるようになれます。みなさん、頑張ってください。応援しています。

N. A. さん（中等教育保健体育専攻）

京都市中学校体育 合格

【はじめに】

私は地元である京都市を受験しましたが、3回生のときは京都市か京都府か滋賀県かで迷っていました。どこを受けようか考えるなかで倍率や地理的なことも確かに気になっていましたが、やっぱり地元への思いが強く京都市に決めました。大学では滋賀県や京都府を受ける人はたくさんいましたが京都市中学校を受ける仲間は見つけれず、情報を取り入れることや勉強の方法に不安はかなりありました。ただ、「後悔するかどうかは自分の取り組み次第！」とずっと自分に言い聞かせていたので、いまできることに必死で「やっぱりあっちにすれば...」とは一度も思いませんでした。受験する所や校種が違って、中学校同士、京都市同士、教採の勉強頑張る同士と一緒に集まって勉強し、先輩・後輩にも教えてもらうことで不安は消え自信を持って臨むことができました。このように仲間とすぐにつながれて、切磋琢磨しながら打ち込める環境があることは滋賀大ならではの魅力であり武器だと思います。この合格体験記が少しでも皆さんの不安解消に役に立てば幸いです。

【1次試験について】

- ・ 個人面接
- ・ 筆記試験（一般教職教養、専門）

個人面接は7つ質問され最後に1分間の場面指導がありました。質問の中には、普段から教育のニュースに関心を持ったり、実際に子どもと関わっていることで語れることもあったので普段から学校現場に足を運んでいろいろと感じながら過ごすことは重要だなと思いました。私は大学の図書館にある教育新聞をチェックしたり、学生ボランティアで週1.2回生徒と関わるようにしていました。また、練習するときは「面接ノート」を作ってテーマに対するキーワードを線で結んで思考を整理しました。練習で自分と違う考えや思いつかないことを友だちが話したときに書き足していくと考えが深まります。ノートに書きためていくと2次試験の小論文や集団討論の練習するときにも使えるのでおすすめです。京都市では「学校教育の重点」に市の教育課題や重点的な取組内容が載っているのでそれも見ておいたほうが良いと思います。

筆記試験では、一次試験の配点の半分を占める専門に特に力を入れて勉強しました。オープンセサミを2周して、あとは全国過去問集でいろいろなパターンの出題に慣れました。やっていくうちに同じような問題が出てくるので、回数を重ねて自信にしてください。

【2次試験について】

1日目

- ・ 指導案作成(80分)、模擬授業(指導案から導入以外の8分間を選択)
- ・ 集団討論面接

2日目

- ・ 小論文(2問出題。A:1000字50分、B:400字20分)
- ・ 体育実技(バスケ、走り高跳び、マット、柔道)

1日目、指導案作成・模擬授業では押さえるべき目標が明確に示されているか、教師が一方的になっていないかが特に重要であると聞きました。集団討論面接は受験者10名(全員保健体育)と面接官4名で行いました。ほとんどが講師の方で緊張しましたが、かえって講師とは違う目線から話せます。学生らしく元気よくきはき話すことを心掛けました。また、他者意識を持つようにと指導されてきたので、人の話をよく目で聞いて自分が意見するときには他者の意見を踏まえて話すよう意識しました。

2日目、小論文は字数が多い割に時間が短く、もともと文章力もないので練習のときもなかなか時間内に書けませんでした。指導してもらい、書き方については「段落ごとに言いたいことをはっきりする」内容については「聞かれていることに答える」「実際のエピソードを入れる」を特に意識しました。試験官は何人もの論文を読むので、段落ごとに見やすくオリジナリティのある内容の方がよく伝わるのではないかなと思います。体育実技は滋賀大の運動部の先輩後輩に基礎基本を丁寧に教えてもらいかなり役立ちました。また、ボランティア先の中学校の先生にも指導してもらい実際に体育授業で教えるときのポイントを押さえることができました。本番でも力を発揮できたのでコツコツ練習してきた良かったなと思いました。練習する場所や仲間、時間、体力があるのは学生の武器なので勉強の息抜きがてら練習を積み重ねることをおすすめします。

【おわりに】

私は教員採用試験の1か月前、勉強ラストスパートの時期に卒論の調査が重なり、精神的にも肉体的にも辛いときがありました。それでも最後まで毎日頑張れたのはいつも一緒に励ましたり助けたり高めあえる仲間がいたからです。大変なことも頑張った分だけ後から自信になったので教採も卒論も投げ出さなくて本当に良かったなと思います。仲間に限らず、実技や面接の練習に付き合ってくれた中学の先生方、指導して下さった大学の先生方、勉強の環境を整えて下さった大学の方、先輩後輩、家族などたくさんの支えのなかで生かされていることを実感しました。これから教員採用試験を受けられる皆さんも、都道府県や校種に関係なく素敵な仲間を大切に、どこかで支えてくれている人のことを胸に、悩めることに有難みを持って、自分を信じて頑張ってください！応援しています。

M. A. さん（中等教育数学専攻）

大阪府中学校数学 合格

【はじめに】

私は滋賀大学に入学した当時、教師になりたいと考えておらず、別の職業に就きたいと考えていました。しかし、大学での講義や実習などを経験していくうちに、自分が目指していた職業への興味・関心がなくなり、2回生の秋学期くらいでは教師という職業の素晴らしさに惹かれていました。そうして私は中学校の教師を目指すようになり、教育実習やスクールサポーターにも積極的に取り組みました。4回生になって教員採用試験に臨みましたが、受験するにあたってたくさん情報を集めたりして自分なりに努力しました。採用試験までどうすればよいかなどアドバイスできればいいなと思っています。

【大阪府の教員採用試験について】

大阪府で採用試験を受けるにあたって、どのような試験方法なのかなどしっかりチェックする必要があります。私が受験した時は前年と大きく変わったことはなかったです。多くの自治体と同じで1次試験があり、1次試験の可否は数日後、教育委員会のホームページ及び郵送での通知で分かります。合格していたら2次試験に臨むことができ、2次試験の受験日程はその通知によって知ることができます。

1次試験は筆記試験と集団面接があります。（筆記試験は教職教養だけです。）2次試験は模擬授業と個人面接があります。模擬授業のテーマなどは事前に決まっています、自分の希望する校種や教科のテーマをよく確認しておく必要があります。模擬授業が終わってすぐに個人面接があります。私が受験した時はこのような形でしたが、受験する際はしっかり教育委員会のホームページを確認して下さい。

【試験の流れ】

4月21日	大学推薦の面接
5月28日	1次試験免除決定の通知
(7月26日	1次試験 筆記試験)
8月23日	2次試験 筆記試験（専門；数学）
9月18日	2次試験 面接試験及び模擬授業
10月21日	2次試験 結果発表

私は大学推薦のお話をいただき、どんなチャンスも逃したくないと思い、4月の面接によって選出されました。自己アピール用紙の提出もあったので、ゼミの先生や他の先生方に

チェックしていただいて、自分が納得するまで練りました。それから 1 次試験免除が決定し、2 次試験の対策に集中して取り組みました。2 次試験までだいぶ期間が長く、その勉強期間は正直つらかったです。

専門の数学の筆記試験に対しては、過去問を何度も解き、よく出題されている分野を確認し、数学の問題集を使って勉強しました。同じ数学コースの先輩で、大阪府で受験した方にアドバイスしていただいたり、校種は異なりますが、同じ自治体で受験する友達と面接の質疑応答の練習を行ったりしました。模擬授業に関しても、自分 1 人では気づかない部分があり、周りの人に度々確認してもらい、改善すべき部分などを分析しました。

【おわりに】

教員採用試験は個人プレーだと思われがちですが、私はそのように思いませんでした。私が合格できたのは、自分の力だけでなく、周りの支えがあったからだと思っています。むしろ協力プレーだと思います。試験勉強をずっと 1 人でしていたら、模擬授業も面接もすべてうまく行ってません。自分 1 人では分からないことや気づかないことがたくさんあります。同じ道を目指す友達や支えてくれる先生方と話し合ったり、発表し合うことで自分の自信にもつながりました。大阪府で教師になりたいと考えている方は、他の自治体で受験する人が多いからといって、個人個人で取り組みがちにならずに、仲間と切磋琢磨しながら試験に臨んでもらえれば良いかなと思っています。皆さん頑張ってください！応援しています！

H. T. さん（初等教育国語専修）

滋賀県高等学校国語 合格

【はじめに】

私は小学校免許を主免とする国語専修に所属していますが、教員採用試験は高校国語科で受験しました。本来、高校で教員となることを希望し、高校の免許を取得したいのであれば、中学校の免許を主免とするコースで学ぶ方が妥当であり、近道だと思います。例えば、初等コースに所属している場合、高校免許を取得するためには小学校での基本実習に加えて中学校か高校での母校実習を行わなければならないといったように、他の人以上に経験を積む必要があります。実際に、初等コースで履修していた私は、中等コースで履修する人達に比べて高校免許を取得するまでに遠回りをしたと思っています。ただ、卒業を控えた今になってわかることはこの遠回りは決して無駄ではなかったということです。ここからは、採用試験のことや、遠回りと表現した私の経験を中心に述べていきたいと思います。

【教員採用試験に向けて】

滋賀県の高等学校教員採用試験は、1次試験で筆記試験（一般教養・教職教養、専門科目、小論文）と集団討論が行われ、2次試験では、指導実技（模擬授業）と面接によって合否が判断されます。これらに臨むにあたって、私がどう取り組んできたかをひとつの意見として紹介します。参考になれば幸いです。

▽ 1次試験

筆記試験（一般教養・教職教養、専門科目、小論文）

私が筆記試験に向けての準備を始めたのは受験前年の11月頃でした。とは言っても、この頃はまだ危機感など無く、何となく机に向かい、ダラダラと勉強していただけたように思います。それでも、机に向かう習慣を付けるために少しずつですが勉強の時間を確保するよう心懸けました。具体的には、大学入試の頃の知識や、1・2回生の頃に講義で履修した内容を思い出すように参考書を読んだり、ノートをまとめたりして勉強していました。同時期に大学の教職実践論が始まるので、小論文の練習は確実にできていました。実践論の先生方は丁寧に添削して下さるので、何度も書き直しては再提出を繰り返し、先生の修正が入らないような小論文を目指しました。小論文に関して言えば、先生方が教えてくださるのはその書き方が主です。ですので、その小論文に自分のどんな意見を入れるのか、どんな考えを表現するのか、という部分は各自で準備するしかありません。大学で配布される部外秘にはこれまでの過去問がたくさん掲載されているので、それを基に自分の意見を予め準備しておけば時間内に小論文を書き上げるのは難しいことではなくなるはずです。

集団討論

集団討論の練習は実践論でも行いますが、それだけではやはり限界があるので、学生同士グループを組んで討論の練習をしました。私はと言うと、高校で採用試験を受ける人が少ないため、校種に関係なく様々な集団面接や意見発表に参加していました。そこで得た考えや意見は、校種に関わらず参考になることばかりで、色んな意見を自分のものにしようと思死にメモをとっていました。討論での意見についてですが、これも小論文と同様に部外秘に過去問が掲載されていますので、そちらを参考にすると準備は万全です。部外秘は参考になることばかり書いてありますので、他の都道府県の過去問や他校種の過去問まで全て網羅するつもりで使ってください。そうすれば集団討論で躓くなんてことは絶対にありえません。

また、あくまで個人的な意見になりますが、討論が上手いなあ、と感じる人には共通点があります。それは「聞き上手」だということです。些細な意見も逃さず聞けていたり、下を向いて小さい声で話す人の意見でも頷きながら余裕を持って対応できている人は、討論が上手い印象を受けます。こういった人の所作を見ていると、話すばかりが討論ではないということがよくわかりました。実際の集団討論も、試験官の方は複数いらっしゃるの、恐らく対応も見られているのではないかと、思います。討論で差を付けたいと思う方は是非参考にしてください。

▽ 2次試験

面接

2次試験の面接は、複数の面接官に対して受験者ひとりで行われます。面接官によっては厳しい質問をされる場合もあるそうですが、私を含めた多くの受験者は和やかな雰囲気です。質疑応答をしました。面接についての対策ですが、これも集団討論と同様に部外秘を参考に勉強するといいです。専門科目についてだけではなく、生徒指導や保護者対応についても質問される傾向があるのですが、これらに対する模範解答は実践論の先生方に質問するなどして準備しました。それでも予想外の質問をされる可能性は十分にあるので、何か自分の中に確固たる信念のようなものを持っておくことでブレずに対応できると思います。例えば、いじめの未然防止について質問されたとき、「生徒に寄り添う」ことを大事にしたいという信念があれば、「私はどれだけ多忙であっても生徒と関わる時間だけは必ず確保して、生徒の異変や変化をいち早く察知します」とすぐに答えられるはずです。支離滅裂な回答ばかりでは、準備してきただけと思われてしまうので、最終的には回答の準備はするものの、その回答の中で自分の色を相手に売り込むくらいの気持ちで臨むことがいいでしょう。

ひとつ付け加えると、先述したような「生徒に『寄り添う』」や「生徒と『関わる』」という言葉は「どのように寄り添う（関わる）のですか？具体的に教えてください」といったように掘り下げられます。面接官の方のこうした追究を逆手にとって、自分のペースに持ち込めるよう、具体的な説明の準備をしておくのは損ではありません。

指導実技（模擬授業）

模擬授業に関しては、科目ごとに課される課題の傾向が違うので、これもやはり部外秘を読んで備えることが第一だと思います。私の受験した高校国語科では、「短歌や和歌を用いて生徒の鑑賞を促す発問を行う」という大まかな傾向があったので、この対策に時間を割きました。図書館には各会社の教科書が置いてあるので、それを参考にしつつ、教科書に掲載されている短歌・和歌については全て目を通し、一通りの指導案を作成しました。そうして百何十通りもの短歌や和歌の指導案を考えるうちに、初見の作品であってもすぐに指導のポイントを捉え、授業の形を作ることができるようになりました。鑑賞を促すというところが難しいポイントなのですが、あんまり深く考えずに、「自分が学生だったらどんな発問をされると考えるだろうか」と立場を変えてみると、案外思いつくものです。

恐らく高校の模擬授業全般に言えることですが、小・中学校の模擬授業と違って高校は「入室から7分間」という短い時間の中で試験が行われます（模擬授業の課題が与えられ、それに対して授業を考える時間は小・中学校と同じ）。そのため、自分の予定していたところまで進まずに時間がなくなってしまった、発問まで辿りつかなかった、ということも珍しいことではありません。7分間という時間に慣れておくことが非常に大切だと思うので、重々注意してください。

【おわりに】

はじめに述べた私の遠回りした経験を少しだけ紹介します。私は高校の免許を取得するために基本実習だけでなく、採用試験を控えた6月に母校実習を行いました。また、初等コースの私は初等の免許を取得しなければならないので、中等コースなら必要の無い初等の授業も一通り履修してきました。つまり、普通に高校の教員を目指す人に比べて必要以上に経験を重ねてきたのです。これらの経験は、特に小学生を相手にしたものが多く、一見、高校生に対しては意味を成さないものにも思われます。しかし実際はそうではありません。相手が小学生であろうが高校生であろうが、『教える』ということに変わりなく、私のこれまでの経験は全て高校生にも通用しました。さらに言えば、スクールサポーター活動や基本実習を通して小学校の現場で学んだ指導法や授業の進め方、発問の工夫が今の私の授業や指導の核となっています。小学校の現場で培った『生徒に考えさせる』ことが、『知識の注入』に寄ってしまう高校の現場で役に立っているのです。もちろん、『知識の注入』が必要な場面もあるかもしれませんが、「先生の授業だけは寝えへんわ」という生徒の声を聞いたことで『生徒に考えさせる』ことも必要だと私なりに認識できました。

長くなりましたが、遠回りしてきたこれまでの経験を私は誇りに思っています。この文章を読んでいるあなたも、好きなだけ遠回りしてください。それを糧にしていくくらいの度量があれば、きっといい先生になれるはずです。応援しています。頑張ってください。

○. F. さん（初等教育社会専修）
福岡県高等学校地理歴史 合格

【はじめに】

私は、今年度の教員採用試験にて採用の内定をいただきました。

私が地理歴史科の高校教員になろうと決意したのは、3回生の春学期でした。しかし、福岡県教員採用試験の専門教科では、日本史・世界史・地理の教科が必要だった上に、私は初等教科専攻だったので高校教育をどう考えていけば良いのかわかりませんでした。これだけではない困難はたくさんありました。教採を受験するうえでの課題は次々に押し寄せる困難をどう解決するかということでした。おそらく私だけではありません。教員採用試験を受ける人は、みんなそうだと思います。特に、私の場合は、あまり人と同じケースではありませんでした。ですから、滋賀県以外を受験する人、高校を受けることに不安があるけど高校の教員になりたい人、集団討論に自身がない人など、様々な人に私の手記を参考にしてもらえれば幸いです。

【試験勉強】

専門教科：2014年10月～

私は、3回生になってから専門教科の勉強を始めてはいましたが、本腰を入れて始めたのは、教育実習が終わってからの10月からでした。はじめに記したように日本史・世界史・地理が必要だったので、3回生からでも間に合うのか不安だったのが正直な話です。始めの方はどのような勉強のやり方が自分にあっているのか模索していることがほとんどでした。そして、勉強のやり方が定着しだしてしばらくたった2月あたりからわかることが増え、勉強することが楽しくなってきました。

専門教科は筆記対策だけやっていたらいいわけではありません。都道府県によっては、2次試験で模擬授業をしなければいけません。特に、集団討論や個人面接でも、専門科目を交えて話をすることが求められます。それは高校で教員に求められる力のひとつとして専門性の高さがあるからです。ですから、解ければいいではなく、この内容で生徒にどんな力をつけさせるのか、そこまで考えて専門教科を勉強していく必要があります。

教職教養：2015年6月～

今、振り返ってみると教職教養を6月から始めたのは少し遅すぎたかもしれません。どうしてこの時期になってしまったかという、言い訳のようになってしまっていますが、思ったよりも専門教科の学習に手間取ってしまったこと、実習で5月丸々勉強できなかったことがあったからです。しかし、これを読んで決して「6月からでいいか～」などと思わないでください。

教職教養は筆記試験ではなく、論文・討論・面接など様々な場面で必要となります。なぜなら教師として持っていなければいけない教養だからです。

私は6月くらいからしかできなかったのですが、福岡県の教職教養の内容は答申などの文書からでていることが多かったので、文部科学省や福岡県が出しているものを収集しては説明できる程度に読み込みました。これを中心に問題集や参考書を使って学習を進めていきました。文書以外では、法律系に力を入れました。

集団討論・個人面接：2015年6月

集団討論は、教員採用試験の中で一番重要視されているものです。私が教員採用試験を受ける上で一番悩んだのは、この集団討論の練習です。私は、人見知りであまり人と話すことが得意ではありません。なので、最初の方は人の話を聞くしかできませんでした。練習なのに頭が真っ白になってしまって話す内容が出てこないのです。しかも、福岡県を受験するので滋賀県とは形式が異なっており、地歴を受験するのが一人ということもあり、一緒に練習したいというのも遠慮して言えない始末でした。他の人は毎日練習している一方で、私は教職実践論の授業の中でしか練習できていないので、自分は落ちるのではないかと不安でした。でも、自分の不幸を嘆いてなにもしないことが一番間違っているのではないかと思って、週1～2回高校を受験する仲間と練習することを提案してみたり、一人で集団討論をしてみたりと工夫しました。

【〇〇なあなたへ】

滋賀県以外の都道府県を受験するあなたへ

特に、1人しか受験しない都道府県の人はかなり孤軍奮闘な状況になります。封筒が届く時期も受験の内容も不安になります。なので、一人で戦っている感じが大きくなってしまいます。しかし、本当は一人ではありません。集団討論を一緒にしてくれる仲間や応援してくれる仲間や先生方がいます。一人ではない、人に感謝できる心の余裕を意識するとよいかもしれません。

加えて、滋賀県の方は教職実践論を受ければ、情報が入っていますが、遠方の都道府県の情報は皆無です。なので、私は福岡県の情報公開センターに足しげく通ったり、ホームページを探したりしました。情報を制する者は教採を制します。

高校を受けたいけど不安なあなたへ

私も高校を受けるのは不安でした。しかし、よく考えてみてください。不安なのは知らないから不安なのであって、できないから不安なのではないのです。なので、まずは高校生を知ることから始めてみてください。私は滋賀県の教師塾を通して、高校を受験する人たちと意見交流したり、実習に行ったりしました。さまざまな経験から教師からみた高校像や高校で大事にしたいことがわかってきます。チャンスは来るものではなく、作るもの

です。

そして、高校を受けたいけど不安な人の中に倍率を気にする方を多く見かけます。私は採用が多い時代に合格しましたので、私の発言が適切ではないとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、倍率はあまり気にしなくて良いと思います。それは、採用が0人でなければ合格する人がいるからです。自分が都道府県にとって必要だと思ってもらえれば合格します。倍率よりも、本当に高校の教員になりたいか、なりたくないかを大事にしてください。

集団討論に自信がないあなたへ

私は集団討論がとても苦手でした。自分の考えは持っているのに、集団討論が始まってあまり話せず終わってしまうこともしばしばでした。私はそんな自分が情けなくて、話をしようとしても、無理に入ってしまったために話を乱してしまったり、自分の立場がわからなくなったりしました。しかし「話せない分人を観察する」ことを意識してからダメだと思う機会が減りました。どうせ自分は話ができないって考えるのではなく、私は話をするのが苦手だからその分しっかり見ようと思うようになりました。集団討論が自分の番でないときや自分の番でもふとしたときに、うまいなって思うことが多々あると思います。そんな発言を観察して分析して、どうしてうまいと感じるのか考えました。そして、どうしてかわかったときに自分なりにアレンジしながら真似してみることで少しずつ話せるようになりました。自分が話したいこと、譲れない軸と自分なりの話し方のスタイルを確立させていけば、話すのが苦手でも話しくくなります。

大事なのは、どうして教師になるのか、教師になった時に何をするのかなどの自分の軸をしっかり作ることです。

4回生で実習に行くかどうか悩んでいるあなたへ

断言します。ぜひとも行ってください。私は実習で大きく成長できたと自負しています。

【おわりに】

私は教員採用試験を受けて、一人だと思えることが多かったように思います。人からの頑張りも素直に受け取ることができなかったり、みんなで集まっているのを見ると羨ましいなと思ったりしました。しかし、本当は一人ではありません。実習校の生徒を思い浮かべて、この生徒のためになる教育は何だろうと考えたり、先生が叱咤激励してくれたり、友だちが声をかけてくれたり...と、自分が見落としているだけで、思ったよりも多くの方が自分の周りにいてくれます。それが物理的でなくてもです。なので、教員採用試験を受ける上で大事にしてほしいことをたくさん書いてきましたが、本当の本当に大事なのは人を大事にできる気持ちをもっているかだと思います。私もまだまだ修行が足りないのも頑張ります。私の手記が少しでも役に立っていれば幸いです。

S. R. さん（障害児教育専攻）

滋賀県特別支援学校 合格

【はじめに】

私は滋賀県の教員になりたいと、3回生の時の教育実習を終えてから決めました。しかし教員になりたい気持ちがあっても、教員採用試験についての具体的な見通しが分からなければ、学習を続けていても不安になると思います。私は何度か不安になることがありました。そこで、試験までの計画をしっかりと立てることができるよう、1年間を通して行った筆記試験や人物対策（面接・討論・模擬授業など）について記しました。参考になれば幸いです。

一次試験

【教職・一般教養】

- ①教職教養 30日完成（時事通信社）
- ②一般教養 30日完成（時事通信社）
- ③教職教養の精選実施問題（協同出版）
- ④一般教養の精選実施問題（協同出版）
- ⑤滋賀県の教職・一般教養（協同出版）

①と②の本は、現在の自分の実力を知るために使用すれば良いと思います。どうしても分からない語句などがあれば、その箇所を赤ペンで書き込み、赤シートで隠しながら覚えることを通して少しずつ理解することが大切です。その後に⑤の本で滋賀県の過去問を解いて傾向を掴み、③と④の本を使って各都道府県で出題された過去問を繰り返し解いていけば、知識が自然に身についたことを実感しました。

教職教養に関しては、本に載っている問題を解くことに加えて、滋賀県や文科省が作成している答申などの資料にも目を通す必要があります。教職実践論の講座で学ぶ機会が多いですが、自分から積極的に探すことも大切だと思います。

一般教養に関しては、私は社会と理科の二つが苦手だったため、社会に絞って中学や高校レベルの学習を繰り返していました。全教科が得意な人はめったにいないので、周囲の受験者と大きな差がつくことは無いと思います。自分の状態（何が得意で何が苦手なのか）を理解した上でどの教科を学習するのか決定することが一番効率的です。

4回生の春学期に（母校）実習がある人は、実習が始まる前に一通り終わらせておくと、気持ちに余裕が生まれるのではないかと思います。

【専門教養】

- ①オープンセサミシリーズステップアップ問題集専門教科特別支援教育（東京アカデミー）
- ②特別支援学校教諭の精選実施問題（協同出版）③滋賀県の特別支援学校教諭（協同出版）

①の本は、特別支援学校の枠で受験する人の大半が使用しています。しかし私が受験した2015年の滋賀県の専門教養（特別支援学校）の問題を見ると例年と比べて難しかったので、②の本も使うと難しい問題にも対応できると思います。全国の様々な問題が載っているため、最初は解けない問題がたくさんありましたが、一つずつ理解しながら繰り返すことで少しずつ対応できました。②の本を使っていたから試験本番の専門教養の問題を解くことができました。他にも、ここには載せていませんが、特別支援学校の学習指導要領解説にも目を通しておくと本番で高得点を狙えるのではないかと思います。③の本は過去問ですので、専門教養の傾向の把握と自分の実力を知ることが目的にして使うことが大切です。

【小論文】

小論文は教職実践論の先生とコースの先生に添削をしていただきました。筆記試験と比べて、小論文には明確な解答が無いので手応えを感じることは難しいですが、書き方を覚えて実践することは大切です。毎回行われる教職実践論での添削を大切にして受講することが上達の近道だと思います。また、外部の模擬試験を活用して自分の力を評価してもらうことも良いです。

【1分間自己PR】

1分間の中で、できる限り自分の良さを伝えることが大切です。自己PRを考え始めた時は何も思い浮かばず悩みましたが、私は学生生活の中で体験したこと（ボランティアなど）を振り返って4月から文章を作り始めました。文字数は300字前後を想定して考えると上手くいきました。試験本番で「丸暗記して言っている」と思われないように話すには、何度も人前で練習して周りの人からアドバイスをいただいて改善していくことが必要です。自己PRの後に集団討論や面接があるので、最初に行われる自己PRは「絶対成功させる」という気持ちで臨むことが大切です。

【集団討論・面接】

本番では集団討論の後に、集団面接（個別質問）が続けて行われます。1分間自己PRも含めて、4月頃から週に1回の頻度で練習をしていました。4月から過去に出題された内容を基にして討論を5,6人で行いましたが、自分の意見を発表することで精一杯でした。それでも何度も練習したことで本番を迎えても必要以上に緊張することはありませんでした。

本番は9人で討論を行ったため、一人あたりの発表時間は少なかったです。話し方や話の内容も評価されますが、それ以上に聴く態度も面接官の方に評価されていると思って臨んだ方が良いでしょう。具体的には笑顔で頷くことや姿勢などです。試験本番で自分の良くない癖がでないように意識して討論などの練習に臨んでください。意見を聴いている時は常

に笑顔でいることを心掛けて討論の練習に臨んでいました。

個別質問では、複数の受験者に対して同じ質問がされます。自分が考えていた意見を隣の受験者に言われて慌てましたが、私も同じ意見を別の言葉で伝えました。個別質問でも、意見の内容も評価はされると思いますが、最後まで面接官の目をしっかり見て笑顔で言うことも重要視されていると思います。

試験時間（1分間自己PR、集団討論、個別質問）は、約1時間でした。最後まで集中して臨めるように、教職実践論や自主的な学習会を通して練習しておくことが大切です。

二次試験

【個人面接】

時間は10～15分でした。受験者によって質問内容は大きく異なります。私は志望動機に関する質問が大半を占めていました。過去に出題された内容に対する意見をノートに一つずつ書くと、かなりの時間がかかるので春から少しずつ書いて整理することが大切だと思いました。知識が要る質問だけでなく、人間性を見られる質問（志望動機、クラブやボランティアでのエピソードなど）も尋ねられることもあるので、しっかりと答えられるように自分の思いや意見を一度整理してみてください。

【模擬授業】

滋賀県の特別支援学校の枠で受験する人は、（取得見込みの）基礎免許から出題されます。そのため、小学校や中学校など複数の免許がある人は、かなり広い範囲から出題されることを意識しておいた方が良いでしょう。試験本番では、授業の構想や教具をつくる時間が7分、模擬授業を行う時間は約5分、その後に数名の試験官の方から質問を受けます。緊張しながら授業をしたため5分が短く感じました。

模擬授業の練習は、一次試験を合格した後に始めたため、十分な時間がなくて少し後悔しました。それでも同じ校種のメンバーと協力して行って、授業時の障害への配慮について話し合いました。他にも、板書や教具の作成などを即興で行う経験も重ねておくことで気持ちに余裕が生まれました。県庁では模擬授業の過去問をコピーすることができるので、早めにしておくとう良いでしょう。

【おわりに】

教員採用試験を受験することは決まっていますが、どの校種で受けようか迷う人もいます。滋賀県の場合、特別支援学校の枠で受験しようとする、小・中学校や高校の枠で受ける人とは異なる勉強が必要ですし、二次試験の模擬授業や面接内容も大きく異なります。どの校種で受けるか決断するためには、やはり将来の自分の姿を想像しておくこ

とが重要ではないでしょうか。真剣に考えることで受験する校種だけでなく、同時に理想の教師像も浮かんでくると私は思います。

教員採用試験の勉強を1年間通して続けることは簡単ではないと思います。4回生の時の教育実習や定期的なボランティア、サークルなど、他の活動を並行しながら勉強していたため、時間の少なさや自分の力の無さに驚くこともありました。それでも「合格」を目指して周囲の人と一緒に頑張り、大学の先生にも協力していただく中で、諦めずに続けることができました。不安になっても、「合格する」という強い気持ちだけは最後まで持ち続けてください。

T. S. さん（滋賀県現職小学校教員）
奈良県小学校 合格

【試験日程】（H28年度試験の場合）

7 / 1 1	1次試験（筆記試験）
	三連休のうちいずれか指定された日 集団討論
8 / 1 1	1次試験合格発表
1 5	2次試験①音楽・体育実技（水泳も）
1 7	2次試験②小論文・適性検査
1 9～2 3	いずれか1日、指定された時間帯で模擬授業を含む面接
9月中旬	2次試験合格発表

【1次試験】香芝高校が試験会場。

○一般教養…特別選考のため免除。教職教養もここに含まれているらしい。

○専門科目…いわゆる五教科が満遍なく出題。逆に、家庭科・図工・音楽・体育は出題なし。

専門科目は以前は二次試験での出題だったのが、H28年度試験から一次試験に入った。

国数社理では、いずれも指導要領から一問以上出題されている。穴埋めではなく、指導要領に示されている内容を踏まえて記述する問題。どのような言語活動を仕組むか（国語）、何に留意して指導すべきと考えるか（社会）というように、教育活動・授業の展開まで考えるトレーニングが必要。ちなみに国語と社会はどちらも6年生の指導内容から出題された。

理科は化学生物地学物理、全ての分野から出題あり。ランナーの内容をしっかりとっておくとよかったと思う。物理の計算が中学校よりちょっと上？というレベルの出題。

英語は英作文が出題された。Hi! Friendsの内容（誕生日を紹介しあおう）から、12か月のうちひとつを選んで、その月の行事について紹介する英文を作るもの。リスニングもあり。ネイティブの発音。これは慣れていないと難しい。

数学・社会は中学校レベルぐらい。社会では幕末期の年表並べ替え、地理の問題などが出題された。もちろんご当地・奈良に関する問題も出題されていた。

○集団面接…8人ぐらいのグループ面接。

（1）集団面接

奈良県のよいところはどのようなところだと思うか。

学校は何のためにあるのだと思うか。

あなたが最近心から笑ったことは何か。

あなたが最近力を入れていることは何か。 など

手を挙げて、指名された順に答える。他の人と内容がかぶることもあるので、早めに行った方がオリジナリティは出せるだろう。「最近心から笑ったことは何か」など、ものすごい変化球も飛んでくる。勤務校で「学校は何のためにあると思うかと聞かれた」というと、現場の先生も驚いていた。いろいろなテーマで自分の考えをすぐまとめる練習をするとよい。

(2) 集団討論「子どもの自己肯定感を育むために大切なことは何だと思うか」

ここで、自己肯定感という言葉の定義についてあやふやな理解の人が討論を引っ張ろうとして、グループのメンバーも自分の中の「自己肯定感」の定義について自信がなくなったらしく、話が迷走しかけた。あと、教職経験のある人が自分の経験を熱く語ったりして、話が止まりがちにもなった。学生さんが多く、「やばい」と思ったのか、この展開にものすごい緊張が走った。あとで試験会場の外に出てから、同じ面接グループだった隣の学生さんに「自己肯定感って、結局何だったんですかね…」としゃべりかけられた。自信がなかったです…と言っていたこの人、二次試験にはいなかった。

まずは、メジャーな言葉はきちんと意味を理解しておくこと。「えっと…」という感じの話し方もしないこと（私の隣の人はこんな感じで不合格でした）あと、経験のある人の強引さに飲まれないこと。建設的に討論をよりよい方向に持って行こうとすること。

試験会場の教室に入る前の廊下で待っている間、小声で「講師の方っておられます？」と学生さんが聞いていた。私が現職ですよーと言うと、「お願いしますね！」と笑顔で言われた。試験会場では、集団面接と集団討論の間にお茶を飲んだりするような休憩時間が少しあった。私語を注意されることはないが、ものすごくしゃべりにくい空気でもある。でもその中でも多少、人となりを理解しておくことは大事だと思った。集団討論はグループの協力が大切。

【2次試験】水泳・体育・音楽は檀原高校。個人面接は日程によって場所が違い、奈良高校と畷傍高校とが会場になっていた。私は畷傍高校でした。

○水泳…クロールで25メートルを完泳。ただし、スタートとゴールも見られているので、正しいスタートとゴールの泳法を見直すとよい（クロールは片手でタッチしてゴール）。タイム計測はないが、フォームは見られている。飛び込み禁止。1回だけ練習ができる。

○体育実技…20～30名ぐらいのグループにわけられ、グループと試験官数名の前で実技を行う。（水泳も同様）

(1) マット運動（記憶が定かではないですが、前転→開脚前転→側転→方向転換して、伸膝後転）。できる人が結構多かった。ちなみに私はなんちゃって側転。

(2) 体づくりの運動

とびなわを持って、ダイナミックなスキップ走をする→ミニハードルを調子よく2歩（ただし着地の足は数えない）で飛び越える→なわとびをほどき、駆け足とびで走りながらゴールに向かう。年によって色々な運動が出題されるらしい。

○音楽実技…(楽器) ピアノ、鍵盤ハーモニカ、リコーダーから1つ任意の楽器を選択。

2次試験受験時に申告することになっている。リコーダーと鍵盤ハーモニカは持参。

私はピアノを選択したが、当日設置されていたのは電子ピアノだった。電子ピアノに慣れていない人はピアノじゃない方が賢明。楽器を使って任意の曲を1曲演奏。ただし、適当なところで止められる。歌の伴奏なら1番が終わるかな…ぐらいのところ。

(歌) 示された共通教材を無伴奏で歌う。私は「夕焼け小焼け」

○プレゼンテーションシート(20分)…個人面接に向けて、自己PRをするシートを記入。これは採点に含まれないとのことだが、個人面接の質問はこれを見ながらされるので、書くことは事前に整理した方がよい。奈良教育大の学生さんと思われる人たちは、同じものをコピーして事前に書きこんできていた。(自分がこれまで頑張ってきたことは、中高大の部活動は、それを学校でどう生かすか、興味のあること…など。滋賀で聞かれることとあまり大差ないので、友だちと一緒に整理するとよい)

○小論文…ある作家の文章を読み、そこから自分が考えることをまとめる。何字だったか忘れたが、とにかく短い。600字以内だったと思う。少ない字数の中で段落構成をきちんとし、時間内に自分の考えをまとめる練習をした方がよい。私は対策せずに行きました…。

○適性検査…①Y-G性格検査 ②内田クレペリン精神作業検査

クレペリンがどんなものかは一度調べられると良い。かなり疲れます。

○個人面接

(1) 模擬授業…教科は選べない。

2年生の国語科「かんさつ日記を書こう」。教科書のコピーを渡され、20分ほど考える時間を与えられる。その後、試験官3人の前で導入部分を含めた模擬授業(10分)をする。板書も必要。授業の後、大切にすべきだと思ったことは何か、他に必要だと思う準備物はなかったか、ということを試験官から質問される時間あり。

このあとの個人面接も含め、試験官はにこやかで、やりやすい雰囲気であった。

(2) ロールプレイ

「子どもが、『授業中にクラスで飛び出す子がいて、今日の授業が進まなかった』と言っている」という保護者からの問い合わせにどう対応するか、真ん中に座っている試験官1名が保護者役でロールプレイ。両隣に座っている試験官がたぶん様子を観察している。

圧迫面接はなかったが、このロールプレイは試験官もかなり本気でしゃべってくるのがわかる。個人的には圧迫面接よりもしんどかった。練習が必要。

(3) 個人面接

- ・奈良県の教員を志望した理由は。
- ・今の子どもたちに足りないと思うものは。
- ・(自己PRのシートを見ながら) 部活動でどのようなことを学んだか。それを学校教育にどう生かそうと考えているか。
- ・奈良県は広くいろいろな地域があるか、どこに赴任しても大丈夫か。

【奈良県の試験について】

集団討論が他府県よりも日程が早かったためか、かなり受験者が多かったです。ただし、他府県が本命の人が力試しに受けているというケースも多かったようでした。二次試験に進むと、欠席（＝一次合格辞退）が多い印象でした。講師など現職にある人は、時期が7月10日すぎということで、学期末の事務が大変忙しい時期での受験でした。

また、受験年齢の上限が50歳まで引き上げになったからか、40歳を過ぎていると思われる受験者もたくさんおられました。30歳を過ぎている私でも、受験グループで見るとまだ若い方か？と思うぐらいでした。ただ、奈良は採用数が減っています。減っているのに受験年齢は拡大されていますから、即戦力となる人がほしいでしょう。

私はほとんど試験の情報も集めず、ただ夫の採用試験時の記憶を頼りに受験しましたが、情報収集は大事です。都道府県別の対策本を使う、県庁でコピーをもらう、説明会に行く、奈良県がやっている教師塾のようなものに参加するなどの対策はした方が絶対によいです。あと、試験内容が前年度までと大きく変更になることもありますから、傾向も重視しすぎない方がよいと思います。

一次試験、専門科目の基本は指導要領です。新卒で滋賀を受験した時と比べると、学習量は100分の1ぐらいだったと思います。運がよかったのは、これまで指導してきた内容や、現在担任している6年生の指導要領からの出題があったことでした。指導要領をきちんと押さえておくことは、採用試験だけでなく、勤め始めてからも大切です。

二次試験はかなりハードです。人によって時間が違いますが、私は朝7:30集合で水泳→体育実技二種類→音楽実技、でした。あと、試験会場はどこも駅から遠い所ばかりでしたので、余裕を持って試験に臨めるようにするためにも、生活リズムは朝方にしておく方がいいと思います。

また、ロールプレイでは自分の人となりを試されます。新卒で受験する場合、想像もつかないようなケースでロールプレイになることもあるかもしれません。カウンセリングのスキルを学ぶこと、誠意をもって対応しようとする姿勢を見せることが大事です。大学の先生など、試験官と同じぐらいの年齢の方に練習につきあってもらうとよいと思います。

自分の新卒のときを思うとそうだったかも...と思いますが、自分を良く見せようとして、必要以上に「よろしく願いいたします」などの言葉をつける受験者が多く、試験官から「言わなくて結構です」とのアナウンスがありました。周りが言っていたら自分も言わないと...という気持ちになってきます。でも、これで試験時間が延びてきます。スケジュールが遅れると迷惑がかかります。指示があった通りに、はきはきと言うだけで充分です。

【教職経験特別選考】

奈良県は「教職経験特別選考」を申請することができます。他の自治体で3年以上の教諭経験、もしくは奈良県内での講師経験がある人は申請すれば一次試験の一般教養が免除になります。ただ、それ以外の試験内容については他の受験者と何ら変わりはありません。

【採用試験を現職で受験するということ】

滋賀で新卒採用されてから結構長い間働いてきましたが、家庭の都合で奈良に転居することになり、奈良の採用試験を受験することになりました。地元で働く方も他府県を受けられる方も、ここで「もう一度採用試験を受ける」ということについて、考えておいて損はないと思います。私はずっと滋賀で定年まで勤めるというつもりでいたのですが、人生何があるかわかりません。

①現職＝即合格 ではない!!!

私の同期採用の友人は、働き始めてから自分の地元の都道府県を数回受験しています。教師としての実力のある人です。でも数回ということは、毎回不合格になっているということです。何回目かできるよう合格しました。現職だから合格しやすいかという、そんなことは決してありません。実際、私が受験した時、同じ面接グループに近隣府県で教諭として働いている方もいらっしゃいましたが、合格発表の時には番号がありませんでした。

「とりあえず滋賀で」「とりあえず地元で」と思っている方、その「とりあえず」の後どうするかはきちんと考えられるほうがいいと思います。今後採用が少なくなるとは思われますが、働きながら受験するというのは非常に、非常に厳しいものがあります。まして教諭の場合、年が経つとどんどん忙しく、責任ある仕事を任されるようになってきますので、試験を受けるのは大変です。もう一度受験というのはよほどの覚悟がない限り、おすすめしません。

②講師でも道はある

教諭として働く中で、いろんな講師の先生に出会ってきました。外国の長期留学やワーキングホリデーの経験がある方、適応指導教室で不登校の子と20年近く向き合ってきた方、院内学級での指導経験のある方...など。どれも、新卒からずっと正規の教諭として働いてきた自分にはない、すばらしい経験です。講師の場合、働き方は選べます。学校以外の場所での経験を積むのもアリです。教諭として働く者として、それは強く感じるころです。ただし、講師の身分は不安定です。同じ仕事内容で給与は全然違います。

③なぜ〇〇県で、教諭として働きたいのですか？

私は転居のために奈良県の試験を受けました。正直、それ以上の理由はありません。滋賀は地元ですから、魅力も分かっていますし、滋賀で働きたい理由も言えます。でも、なぜ奈良県に...? 「引っ越したから」という理由では不合格です。「講師でもいいじゃないか」「私学だってあるし」「なぜ、教諭として奈良県で働きたいのか?」と自問自答し続けました。講師も教諭も、子どもや保護者の前では同じ「先生」です。違いはないのです。「先生になりたい」だけなら、別に教諭でなくても先生と呼ばれる仕事にはつきます。教諭として働きたいのはなぜか? 教諭なら10、20年とそこで働くことになるが、そのころの自分は? というビジョンを明確に持つておくといいと思います。

【現職教員で実際に試験を受けるとどうなるか】

受験自体は4月からずっと意識していましたが、新年度スタート、運動会、家庭...としていくうちに6月中旬を過ぎてしまいました。今年度は6年生の担任でもあり、仕事もきつかったです。受験については勤務校の理解もあり、応援はして頂いていましたが、講師と違い、採用試験があるから早めに帰って...仕事負担も軽減して...という配慮はゼロです。もちろんそんなことを言い出せるような状況ではありません。毎日8時9時、遅い時は10時までの仕事が続きました。試験どころではなかったです。

6月中旬にようやくランナーを購入しました。週に2~3回、それも10分ぐらい、少しずつランナーを埋め、前夜にまとめて確認しました。滋賀は7月下旬が試験なので、「滋賀はいいな...」としみじみ思いました。隣のクラスが講師の先生だったので、お互いに試験について励ましあっていました。隣の講師の先生も今年度で無事合格されました。

一次試験の合格後、二次試験の日時については全てインターネットで発表されます。ここで、二次試験の日のうち、1日は自分の10年経験者研修と、もう1日は学校のPTA除草作業と重なっていることがわかりました。研修の欠席については管理職に色々手続きを取ってもらう必要があったので、すぐ連絡しました。お盆の閉庁期間に重なるので、こういった手続きは早めにすることが大切です。あと、自分の状況について知ってもらわなければならないことは、早いうちから管理職に話しておくことも大切(根回しともいう)。気持ちよく動いていただきました。ちょうど夏休みで、水泳記録会の指導などもあったので、子どもを帰らせてから自分もプールで少し泳いでいました。

試験を受けながら、新卒の学生の時の気持ちを色々と思い出しました。現職ということは学生と違います。現場を知っている分、夢や希望だけでは語れないことがたくさんあります。その自分がどんなことを話せばいいのか、色々悩みました。二次試験の個人面接では、一応自分の考えを話したものの、これは不合格だなと思っていました。

そんなわけで、9月の中旬の合格発表では、実は一度不合格として通知がありました。次年度は講師として働くつもりでしたが、その後、辞退者があったために追加合格と連絡がありました(これは携帯に電話がかかってきました)。こんなこともあるようです。レアケースだと思います。

採用後10年を経て、他の都道府県の採用試験を受けるとするのは稀なケースだと思いますが、この体験が、現役の学生さんや採用試験の受験を考えておられる方々のお役に立てれば幸いです。